

第9～12回 委員会の結果報告

第9回委員会（2002.3.30開催）結果報告	2002.4.3 庶務発信
<p>開催日時：2002年3月30日（土） 13：30～17：30 場 所：国立京都国際会館 アネックスホール</p>	
<p>1 決定事項</p> <ul style="list-style-type: none">・ 4月11日の全体勉強会に向けて、全委員に対して、委員会および各部会の中間とりまとめ案（資料2-1、2-2、2-3、資料3）について意見照会を行う。 <p>2 審議の概要</p> <p>（1）前半の部：ご意見をお伺いする会</p> <p>本日の会について</p> <p>庶務より、意見発表者候補の選出の考え方と結果について説明が行われた。</p> <p>一般からの意見発表と意見交換</p> <p>9名の意見発表者を前半5名、後半4名に分け、1人7分（その後の質疑応答3分）で発表頂いた。また、前半、後半ごとに委員と発表者を交えて意見交換を行った。意見交換の際には一般傍聴者からの発言も募り、1名から発言があった。</p> <p>（2）後半の部：会議</p> <p>各部会の中間とりまとめ状況報告と意見交換</p> <p>資料2-1、2-2、2-3を用いて各部会の中間とりまとめの状況が報告され、意見交換が行われた。</p> <p>各部会の中間とりまとめでは、共通する部分はできるだけ委員会にまかせ、地域の特性や独自性を出していくことなどが確認された。</p> <p>委員会の中間とりまとめに関する議論</p> <p>資料3「中間とりまとめ案」について説明が行われ、委員会の中間とりまとめに向けた意見交換が行われた。主な議論としては下記のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 流域全体として水需要管理を実施することの重要性について・ 「洪水被害を無にすることは不可能であり、受忍することも必要」という考え方やその表現方法について・ 川と人をつなぐ役割を果たす「河川レンジャー」や「流域センター」の重要性、具体的なイメージ、記述の仕方などについて <p>河川管理者からの説明</p> <p>滋賀県および淀川工事事務所より、配布された資料（資料5、資料6）について説明が行われた。</p> <p>一般傍聴者からの意見聴取</p> <p>一般傍聴者6名から発言があった。</p>	

このお知らせは委員の皆様には主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。審議の主な内容については「結果概要」を、発言の詳細については「議事録」を参照下さい。

開催日時：2002年4月26日（金） 13:30～16:30

場 所：ぱ・る・るプラザ京都 5F 会議室A

1 決定事項

- ・ 委員会の中間とりまとめは、本日の委員会の議論を反映させたいうで確定する。
- ・ 5月15日の第11回委員会では、中間とりまとめの内容について、河川管理者との質疑応答を行う。
- ・ 6月下旬に、中間とりまとめ内容等、流域委員会の活動を周知するためのシンポジウムを開催する。
- ・ 山村恒年氏を委員会の委員(法律)候補として選定し、委員として追加するよう近畿地方整備局長に要請する。

2 審議の概要

委員会の中間とりまとめについて

資料1-1「委員会の中間とりまとめ(案)」の説明が行われ、とりまとめの最終確定に向けて、文言の修正等について意見交換が行われた。

最終的に本日の議論を反映させて委員会の中間とりまとめを確定することが了承された。

今後の委員会の活動内容について

資料2「今後の活動内容について(案)」の説明が行われ、今後は以下のようなスケジュールで活動を行うことが確認された。

- ・ 5月上旬：中間とりまとめを確定する。
- ・ 5/15(日)：第11回委員会にて中間とりまとめについて河川管理者との質疑応答を行う。
- ・ 6月：中間とりまとめの内容を流域住民にPRするため、京都周辺でシンポジウムを行う。開催候補日は、6/16(日)、6/22(土)、6/23(日)とする。
- ・ 8月頃～：河川整備計画原案を審議し、委員会としての最終答申を作成する。

委員の追加について

資料3「委員の追加について」をもとに、法律専門の委員会委員を追加する経緯や、候補である山村恒年氏の経歴等が説明され、山村氏を候補として選定し、近畿地方整備局長に委員会委員として追加するよう要請することが了承された。

一般傍聴者からの意見聴取

委員傍聴者1名、一般傍聴者3名から発言があった。

このお知らせは委員の皆様に必要な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。審議の主な内容については「結果概要」を、発言の詳細については「議事録」を参照下さい。

第 11 回委員会（2002.5.15 開催）結果報告

2002.5.24 庶務発信
(5.17 版を改訂)

開催日時：2002年5月15日（水） 15：30～18：30
場 所：京都パークホテル 1階「エディンバラ」

1 決定事項

- ・委員会での議論の深耕と、河川管理者からの質問への対応検討のために、下記の2つの論点を検討するWG（論点別WG）を設置する。WGメンバーは次回の委員会にて決定する。
 - ・水需要管理（具体的な方策等の検討）
 - ・水位操作（環境と治水、利水等を調和させた琵琶湖、ダム等の水位操作のあり方等）
- ・河川管理者とのやりとりは、委員会と各部会それぞれで行うが、意見の整合を図るため、各部会は委員会に議論の内容を報告し、意見に相違があった場合には委員会が調整し、意思決定を行う。
- ・シンポジウム（6/23 午後開催）について意見があれば、庶務に伝える。
- ・第13回委員会の開催日は、7/30（火）とする。

2 審議の概要

中間とりまとめについて

- ・今出している中間とりまとめは、最新版なのであって最終確定したものとは考えず、今後、河川管理者をはじめ各方面との議論を経て進化していくもの、と考える。

河川管理者との質疑応答

資料2-1「委員会中間とりまとめに対する河川管理者からの質問」を元に、質問(1)～(21)、(28)、(35)について議論および質疑応答が行われた。本日議論できなかった部分に関しては、次回以降の委員会で検討を行う。また、「水需要管理」などの論点に関しては、別途WGを設置することが提案された。

今後の委員会の活動内容について

- ・資料3-1「シンポジウム開催（案）」を元にシンポジウム概要について説明が行われた。
- ・資料3-2「今後の活動内容について」を元に今後の活動内容イメージについて説明が行われた。

一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者2名から発言があった。

このお知らせは委員の皆様には主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。発言の詳細については「議事録」を参照下さい。

開催日時：2002年6月6日（木） 13：30～17：00
場 所：ぱ・る・るプラザ京都 5階 Aホール

1 決定事項

論点別ワーキンググループに関して

- ・WGメンバーとして、以下の案（運営会議メンバーにより選定）が提案され、了承された。今後、メンバー全員に就任の承諾を得て、6月から議論を開始することとする。
水需要管理WG：今本委員（リーダー）、荻野委員、川上委員、寺田委員、寺川委員、小尻氏*（京都大学防災研究所）
水位管理 WG：梶屋委員（リーダー）、江頭委員、田中(哲)委員、谷田委員、西野委員、村上委員（* = 委員以外のメンバー）
 - ・原則非公開を想定するが、公開 / 非公開の決定は各WGに委ねる。議論の結果等は公表する。また、必要な場合には河川管理者にも議論に参加いただく。
 - ・WGの設置に伴い、次回委員会にて流域委員会規約の改定について諮る。
- 一般意見聴取について
- ・委員会として、現地での意見聴取を行う。具体的な日程、方法、開催地等については、運営会議でまず議論する。
 - ・現在募集している「中間とりまとめへの意見募集」について、締め切りを7月末までに延長し、流域の自治体にも呼びかけを行う。

2 審議の概要

各部会からの報告

資料1-1、1-2、1-3を元に、各部会からの報告がなされた。

琵琶湖部会からは、6月4日に行われた丹生ダム上流の現地視察や現地の方々との意見交換が報告された。淀川部会からは河川管理者との意見交換についての進行状況と第15回淀川部会の概要、猪名川部会からはWG設置や委員拡充も検討したい等の報告がなされた。

河川管理者との意見交換

前回委員会に引き続き、資料2-1-1「委員会中間とりまとめに対する河川管理者からの質問(020515)」を元に、質問(22)～(35)について意見交換が行われた。

今後の委員会の活動内容について

- ・資料3-1「シンポジウム開催概要」、資料3-2「今後の活動内容について」、資料3-3「5月～12月の会議日程について」を元に、シンポジウムの概要と今後の活動内容についての説明が行われ、上記1.のとおり決定された。

一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者2名、委員傍聴者1名から発言があった。

このお知らせは委員の皆様に必要な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。審議の主な内容については「結果概要」を、発言の詳細については「議事録」を参照下さい。